「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

対策メニュー名	高効率給湯器・温水ボイラー（ガス式・灯油式等）の導入	シート番号	A29031
システム・設備	給湯・温水利用設備	6 類型	設備導入
削減余地順位	全体：17 位　産業部門：101 位　業務部門：10 位		

診断結果と対策提案実施の状況（診断結果は H28～R2 年度診断分、提案実施状況は H28～H31 年度診断分）

表 1．診断結果（対策の削減余地・診断時の提案率）　▶ 削減余地の大きい 5 業種（診断件数 20 以上）

	全体	産業部門	業務部門	58 飲食料品小売業	85 社会保険等の事業	80 娯楽業	82 教育、学習支援業	75 宿泊業
削減余地 [千 t-CO_2]	1,761	12	1,749	456	252	231	188	156
診断件数	3,303	1,216	2,087	102	484	129	27	215
診断時提案数	298	16	282	1	109	19	6	55
診断時提案率	9[%]	1[%]	14[%]	1[%]	23[%]	15[%]	22[%]	26[%]

表 2．対策提案の実施状況

	全体	産業部門	業務部門	58 飲食料品小売業	85 社会保険等の事業	80 娯楽業	82 教育、学習支援業	75 宿泊業
事業報告書提案数	264	14	250	1	95	17	5	48
事業報告書実施数	58	2	56	1	24	1	1	16
事業報告書実施率	22[%]	14[%]	22[%]	100[%]	25[%]	6[%]	20[%]	33[%]

表 3．実施された対策の内容

	項目		最大値	中央値	最小値	平均値
提案・実施内容	CO_2 削減量	[t-CO_2/年]	99.7	9.2	0.14	18.0
	導入コスト	[千円]	36,500	5,000	50	6,767
	運転コスト削減	[千円/年]	3,241.3	278.3	-2,721.5	435.1
	投資回収年数	[年]	293.1	19.3	1.9	30.8
	事業所 CO_2 削減割合	[%]	17.1	2.4	0.042	3.6

表 4．提案された対策の実施理由・未実施理由

実施理由	初期費用が安かったため	0	実施理由の大半は「補助金を活用できたため」39[%]と、「省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため」が 31[%]となっている。
	補助金を活用できたため	20	
	投資回収年数が短いため	1	
	省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため	16	
	その他　（無回答を含まず）	14	
未実施理由	初期費用が高かったため	12	未実施理由は、既設設備継続使用判断が半数(50[%])あり、初期費用、補助金、投資回収年数など投資コストに係る理由が 39[%]となっている。
	提案された設備の機能や運用に懸念	1	
	補助金を活用できなかったため	4	
	投資回収年数が長かったため	6	
	省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため	0	
	既存設備がまだ使えたため	28	
	対策実施により事業所の操業に影響が生じるため	2	
	その他　（無回答を含まず）	5	

表 5．同時に実施されることが多い対策

同時実施の順位	メニュー番号	対策メニュー名	同じ大分類
1	11135	高効率パッケージエアコンの導入（老朽化更新を含む）	
2	21031	LED 照明の導入	
3	29021	給湯配管類の断熱強化	○
4	29051	高効率ヒートポンプ給湯機の導入	○

※ 特記事項

実施された対策について（表 3）

(1) CO_2 削減量が 30[t-CO_2/年]以上は 11 件で、うち提案通り実施した最大事例は給湯に用い事業所消費エネルギーの 57[%]を占める LPG ボイラを使用 8 年目で潜熱回収型の高効率ボイラに改修。投資回収年数 5 年、事業所 CO_2 削減割合 11[%]。（補助金活用）

(2) 導入コスト 10 百万円以上は 13 件で最大事例は A 重油が CO_2 排出量の 33[%]を占める事業所の給湯ボイラを LPG 燃焼高効率ボイラへと老朽更新。また、提案通り実施された投資回収年数最大事例（93 年）は投資額 1.1 百万円、設置 21 年目のボイラを同じ灯油式の高効率機に老朽更新。

「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

(3)　事業所 CO_2 削減割合 10[%]以上は 5 件あり、最大事例は投資 11 百万円で、15 年目の重油燃料式から高効率ガス給湯器へ老朽更新。回収年数 3.3 年、CO_2 削減量　44[t-CO_2/年]